合理的選択モデルと投票行動

投票行動研究の2つの課題

投票参加

- ダウンズのモデル
  ダウンズ、A. 1957. 『民主主義の経済理論』古田
  精司監訳 成文堂、2.3.8章。
- ライカーとオーディシュークのモデル
  \[ R = PB - C + D \]
- ローゼンストーンとハンソンのモデル
  - 個人的の要因と政治的要因

合理的の人間の要件

- 意志決定能力
- 選好順位付け能力
- 推移的順位付け（クリックでその説明へ）
- 高順位選択
- 選好の安定性

推移律

\[
A > B \\
B > C \\
\therefore \quad A > C
\]

投票参加の説明

- 分析用語（p.39）
- 期待政党間差異
  - I: \[ E(U_{it}^A) - E(U_{it}^B) \]
  - II: \[ (U_{it}^A) - E(U_{it}^B) \]
- 実績評価
  \[ \frac{U_{i}}{U_{i}^A} \]
投票参加の説明

・期待政党間差異
  - I:  
    \[ E(A_{t+1}) - E(B_{t+1}) \]
  - II:  
    \[ (U^A_{t+1}) - E(U^B_{t+1}) \]

U: t任期にわたり政府活動から有権者個人が得る効用所得

投票参加の説明

・期待政党間差異
  - I:  
    \[ E(A_{t+1}) - E(B_{t+1}) \]
  - II:  
    \[ (U^A_{t+1}) - E(U^B_{t+1}) \]

A: 与党、t期における政権担当政党
B: 野党、t期において政権を持たない政党

投票参加の説明

・期待政党間差異
  - I:  
    \[ E(A_{t+1}) - E(B_{t+1}) \]
  - II:  
    \[ (U^A_{t+1}) - E(U^B_{t+1}) \]

E: 期待値（実際にはそれだけの効用があらかどうか分かららないが、あると予測できる効用）

投票参加の説明

・期待政党間差異
  - I:  
    \[ E(A_{t+1}) - E(B_{t+1}) \]
  - II:  
    \[ (U^A_{t+1}) - E(U^B_{t+1}) \]

\[ > 0 \]
\[ < 0 \]
\[ = 0 \]

投票
棄権

投票参加の説明

・期待政党間差異
  - I:  
    \[ E(A_{t+1}) - E(B_{t+1}) \]
  - II:  
    \[ (U^A_{t+1}) - E(U^B_{t+1}) \]

\[ > 0 \] 投票
\[ < 0 \]
\[ = 0 \] 棄権

Copyright 2008 by Yoshitaka Nishizawa
ダウズモデルに対するライカー&オーデシューカーの修正

- R&Oのモデル
  \[ R = PB - C + D \]

- ダウズが注目したのはこのBのみ
  （支持する候補者が当選したときにもたらされる効用差benefit）

Rosenstone&Hansenモデル

  - 個人の要因
  - 政治的要因（政党の戦略的な動員）

- 日本の場合の事例研究
  - 「日本の投票参加モデル」 綾貫誇治・三宅一郎『環境変動と態度変容』木鐸社, 1997, 所収

投票方向の説明

- 空間立地論の応用
- アメリカの二大政党

\[ N \text{ of voters} \]

政策の傾向：
- 革新的
- 保守的
空間理論の実証

・実証例--三宅論文
  世論調査による適合・不適合の割合

適合・不適合とは

・自分の政策位置に近いXに投票したAさん
  適合 --- ダンウズの説明が「適合」していない。

三宅一郎1990.『投票行動』東大出版会 p. 155

表4-6 最短距離選択モデルの適合率（％）

<table>
<thead>
<tr>
<th>投票政党</th>
<th>適合</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>一義的適合</td>
<td>29</td>
</tr>
<tr>
<td>非一義的適合</td>
<td>24</td>
</tr>
<tr>
<td>不適合</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>1ポイント</td>
<td>18</td>
</tr>
<tr>
<td>2ポイント以上</td>
<td>25</td>
</tr>
<tr>
<td>判定できず</td>
<td>4</td>
</tr>
<tr>
<td>計（％）</td>
<td>100</td>
</tr>
<tr>
<td>N</td>
<td>820</td>
</tr>
</tbody>
</table>
空間理論への批判-ストークス
有権者の分類（概念形成の度合による）
1）政策や政党をイデオロギーによって判断 2.5%
2）政策や政党をややイデオロギー的に判断 9.0%
3）政党（政策）を社会集団の代表として見ている 42.0%
4）個別な事件との関連で政権担当政党を看いている24.0%
（戦争を始めた・景気をよくした）
5）政策や政党にまったく意見を持たない（無関心） 22.5%

３つのハードル
・争点を認知
・自己の立場の認知
・政党の立場の認知

ダウンズモデルの前提
・空間の単次元性
  ・多次元空間
・構造の安定性
  ・争点は時として変わる
・秩序ある次元の存在
  ・対立争点（position-issues）
  ・合意争点（valence-issues）
・政党・有権者の枠組みの共有
  ・有権者の数だけある政治空間